

## 山形・三条遺跡

さんじょう



(橋 岡)

河江市は、北部を東流する  
寒河江川と、南端で大きく  
流れを変える最上川に囲ま  
れた地域に市街地が広がる。  
市街地南辺に東北横断自動  
車道・酒田線が計画され、一  
九九四年度から緊急発掘調  
査が行なわれた。最上川の  
河岸段丘に位置し、丘陵部

- 1 所在地 山形県寒河江市大字寒河江字三条
- 2 調査期間 第三次調査 一九九六年（平8）四月～一月
- 3 発掘機関 財山形県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 水戸弘美・佐竹桂一・植松暁彦・川田嘉信・長瀬えみ子
- 5 遺跡の種類 集落跡・河道跡
- 6 遺跡の年代 繩文・弥生時代、奈良・平安時代、中世・近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

三条遺跡は、山形県のほぼ中央部に位置する寒河江市にある。寒

河江市は、北部を東流する  
寒河江川と、南端で大きく  
流れを変える最上川に囲ま  
れた地域に市街地が広がる。  
市街地南辺に東北横断自動  
車道・酒田線が計画され、一  
九九四年度から緊急発掘調  
査が行なわれた。最上川の  
河岸段丘に位置し、丘陵部

全体が複合遺跡になつてゐる高瀬山に、東西にトレンチを入れたような状況である。高瀬山を挟む調査総面積は二〇万m<sup>2</sup>を越え、そのほぼ全域で八世紀後半～九世紀の建物などが検出されている。

三条遺跡は、この緊急発掘調査で確認した遺跡の一つで、高瀬山の東に面した緩やかな斜面上に広がる。「三条」の地名から条里の存在が推定されていたが、今回の調査では、奈良末～平安時代、江戸時代の水田跡が確認された。水田跡に面した西側のやや小高い地域には、奈良・平安時代の掘立柱建物と竪穴建物が四〇棟以上密集し、その居住域を南西から東に囲むように流れる河川が検出された。居住域と水田の間を縫うように流れる東側では、砂層の堆積によつて、流路をほぼ同じくするSG一三四とSG三三三の二時期の河川が確認されており、木簡はこのうち古い方のSG三三三の河床から出土した。SG三三三は、幅約四～六m深さ〇・八m前後を測り、八世紀後半の遺物を多量に含む。札状の木製品が五点出土し、このうち一点に明瞭な墨痕が認められた。これらの河川から出土した八世紀後半～九世紀のものと考えられる須恵器・土師器・木製品は、遺物整理用コンテナで約二五〇箱分にのぼる。

木簡の以外の文字資料としては、四三〇点を越える墨書き土器、六〇点を越える刻書き土器が確認されている。墨書き土器のうち約四〇〇点が河川からの出土で、須恵器の杯・蓋の転用硯約四〇点が共伴している。確認できる文字は約六〇種あり、そのほとんどが一文字で



（水戸弘美）

1	所在地	山形県飽海郡遊佐町大字富岡字上家ノ前
2	調査期間	第三次調査 一九九七年（平9）五月～七月
3	発掘機関	（財）山形県埋蔵文化財センター
4	調査担当者	齋藤 健・飯塚 稔
5	遺跡の種類	集落跡・河道跡
6	遺跡の年代	平安時代・中世
7	遺跡及び木簡出土遺構の概要	<p>上高田遺跡は、山形県の北西部、秋田県境に近い遊佐町に所在し、古代出羽国府擬定地である城輪柵跡の北約6kmに位置する。周辺は月光川、庄内高瀬川などにより形成された冲積平野で、遺跡は自然堤防上の微高地に立地している。</p> <p>上高田遺跡の調査は、これまでに一九九四年に圃場整備事業関連による第一次調査が、一九九六年に国道三四五号改築工事による第</p>

ある。点数の多いものとしては、「奉」「子（写?）」「山田」「荒」「井」「丈」「王」などがある。この他、「品遅」「郡」「坂合」「大神」「奥（興）代」「丈部田（?）」などが注目される。刻書には、「大」「×」「川」などがある。

#### 8 木簡の釈文・内容

##### （1） □五日田主大伴部廣

（132）×（24）×4 081

上下端とも欠損し、全体的に腐蝕しているため原形は不明である。なお、木簡の釈読については、国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示を得た。

#### 9 関係文献

（財）山形県埋蔵文化財センター『三条遺跡第三次調査説明資料』

（一九九六年）

（水戸弘美）

（吹浦）

上高田遺跡の調査は、これまでに一九九四年に圃場整備事業関連による第一次調査が、一九九六年に国道三四五号改築工事による第